

提出された意見	意見に対する市の考え
「里海の活用」は港町木更津を看板としている以上、力を入れていくべきだと思います。	「里海の活用」については、盤洲干潟エリアの自然環境を将来に継承していくための協議、東京湾の生態系を豊かにする藻場の再生やアサリ・海苔等の食害対策として黒鯛の資源化に向けた取組を推進しているところです。
「今後は、植生・水質調査や倒竹木のチップ化などを進め、これらの取組をモデルとして、森林の健全な維持・管理につながる活動を市内全域に波及させることで、豊かな自然環境の継承に向けて取り組みます。」とありますが、水質調査は場所を決めて年1回は実行してください。	「里山の再生」については、富来田地区の「ハンノキ湿原周辺地域」を最優先に掲げており、水質調査においては、「いっせんぼく」の湧水を分析する予定としています。
汚染された水・土から、オーガニックの物は作れません。汚染されたら自然を取り戻すのに何年もかかるのです。うわべの無農薬ではなく、無農薬の原点、元から考えてください。	土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続性の高い環境保全型農業を推進しているところです。
市が、今、何をやっていて、どういうことがわかっているか、市民にわかるように、市民参加の機会も作って説明会・報告会を是非、行ってください。市が何をやっているのかを理解してもらうことで市が市民と一体化になってこそ、活動が盛り上がっていくものと思います。	オーガニックなまちづくりの推進に向けては、目的や取組を市ホームページやSNS等で発信しているほか、オーガニックシティフェスティバルやセミナー等のイベントを通じて、市民の皆さまに参加、体験いただける機会を提供し、主体的な活動や行動変容の促進につなげているところです。引き続き、頂戴したご意見を参考に、様々な媒体や方法を通じて、分かりやすく周知することで、市民をはじめとする「取組の輪」を広げてまいります。
農業支援センターの設立は賛成ですが、センターができる間、アカデミアの各研究所の中に農業支援に協力していただけたところはないでしょうか。	農業支援センターの設立に向けて、有識者とともに議論を深める中で、今後の参考とさせていただきます。
「資源循環の促進」について、市民が具体的に参画しやすいように周知をインターネットや回覧ではない形ですすめていかないと、いつまでも市民一人ひとりがつくりあげていく一員であることが伝わらないと思う。	「資源循環の促進」については、「何のために再資源化に取り組むのか」、「再資源化されたものが、市民生活や経済活動にどのように循環されていくのか」、「こうした取組が、持続可能な地域づくりや木更津市の魅力向上にどのように寄与していくのか」といったことを市民の皆さまをはじめ、取組に関わる全ての皆さまに、分かりやすく、かつ、具体的にお伝えしていくことが重要であると考えています。また、4月から変更となったごみステーションへの衣類の出し方については、市ホームページ、SNS、広報誌やオーガニックシティセミナーを通じて周知を図ったところですが、ごみの分別や減量化に向けた啓発に取り組む中で、今後の周知方法の参考にさせていただきます。
4月からごみステーションへの衣類の出し方が変わりました。これは、視覚的にどのようにされたのでしょうか。各公民館を展示ラリーするなどして、ごみ分別のオーガニックな暮らしをアピールしたらどうでしょう。	
ごみ分別ガイドも各戸には発行しない予定と聞いています。古いごみ分別ガイドを忠実に守ろうとする方もいるかもしれません。また、転入者は、どうなるのか。オーガニックの計画で資源循環を取り上げるなら、ぜひ、オーガニックなまちの視点からのごみ分別ガイドを配ってもらえたらと思います。	